

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんの通常診療範囲内で行った採血の残余検体を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

本態性高血圧患者における血清 GDF-15 と腎障害の関係

【研究機関】

愛媛大学医学部附属病院第二内科（循環器・呼吸器・腎高血圧内科学）

【研究責任者】

三好賢一（第二内科 助教）

【研究の目的】

2004年4月から2011年3月の期間において、愛媛大学医学部附属病院腎高血圧内科に外来通院している、収縮期血圧 140mmHg あるいは拡張期血圧 90 mmHg 以上、あるいはすでに降圧薬を内服中の本態性高血圧患者さんを対象とします。通院期間中に通常診療範囲内で行った採血の残余検体を用いて血清 GDF-15 を ELISA (Enzyme-Linked Immuno Sorbent Assay) 法で測定し、GDF-15 が本態性高血圧患者において腎障害の有用な指標となる可能性があるかを解明することが目的です。上記の関連を検討した研究は乏しく、本研究で検討することで今後の診療にも役立つことができると考えています。

【研究の方法】

（対象となる患者さん）2004年4月から2011年3月の期間において、愛媛大学医学部附属病院腎高血圧内科に外来通院している、収縮期血圧 140mmHg あるいは拡張期血圧 90 mmHg 以上、あるいはすでに降圧薬を内服中の本態性高血圧の方

（利用するカルテ情報）性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、治療状況 等

（利用する試料）採血の残余検体

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>

七條 聖（第二内科 医員）

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院第二内科（循環器・呼吸器・腎高血圧内科学）

三好賢一、七條聖

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5303